

# NEWS LETTER

---

2020年5月27日  
一般財団法人岩手経済研究所

## 「いわて景気ウォッチャー調査」－2020年4月調査－について

一般財団法人岩手経済研究所（理事長：高橋 真裕）は、定例の「いわて景気ウォッチャー調査（2020年4月調査）」を実施しました。

本調査の結果は以下のとおりです。

現状判断 14.3

※前回（2020年1月）調査比28.0ポイント低下

先行き判断 10.5

※同34.5ポイント低下

本調査の概要は、別紙「いわて景気ウォッチャー調査結果－2020年4月調査－」のとおりです。また、詳しくは5月29日発行の当研究所機関誌「岩手経済研究 2020年6月号（No.451）」にも掲載いたします。

2020年5月27日

# いわて景気ウォッチャー調査

－ 2020年4月調査 －

盛岡市中ノ橋通一丁目2番16号  
岩手銀行中ノ橋支店3階

一般財団法人 岩手経済研究所  
理事長 高橋 真裕

(担当 地域経済調査部 阿部 瑛子)  
TEL 019-622-1212

# ＜ 調査結果の概要 ＞

## 1. 県全体の状況

**現状判断は調査開始以降最低を記録、先行きも悪化の見通し**

### (1) 現状判断 ～調査開始以降最低を記録～

県内の景気の現状判断指数は、14.3と前回(42.3)に比べ28.0ポイント低下し景況感の分かれ目とされる50を8期連続(24カ月)で下回った。新型コロナウイルスの感染拡大による外出の自粛などから飲食関連やサービス関連で特に厳しい判断となったほか、幅広い業種に需要の縮小などの影響が及んでいることなどから、判断指数は2009年10月の調査開始以降最低となった(図表1、2)。

回答構成比は「良くなっている」「やや良くなっている」が4.0%(前回16.0%)、「変わらない」は8.0%(同45.0%)といずれも減少した一方、「やや悪くなっている」「悪くなっている」が88.0%(同39.0%)と大幅に増加した。

分野別では、家計動向関連指数が10.8(同42.6)、企業動向関連指数が20.8(同39.1)、雇用関連指数は22.2(同47.2)といずれも前回より大幅に低下した。

家計動向関連では、同ウイルスの影響による特需があるとの声の一部が一部で聞かれた一方、外出の自粛などによる売上げの低迷を示す回答が多数となった。また、集客自体が感染リスクに直結するとして売上げ低迷の打開策を考えあぐねている状況が窺われる回答もあった。企業動向関連では、同ウイルスの感染拡大によりサプライチェーンに影響が及んでいることを示す回答がみられた。雇用関連では、同ウイルスの影響で企業が採用計画の見直しを余儀なくされている状況を指摘する回答があった。

地域別では、県央地域が13.2(前回35.1)、県南地域が14.4(同45.8)、沿岸地域が20.3(同51.4)、県北地域が6.3(同38.9)となった(図表5)。

### (2) 先行き見通し ～先行き判断も前回調査を大きく下回る～

2～3カ月先の県内の景気の先行き判断指数は、10.5と前回(45.0)に比べ34.5ポイント低下し、8期連続で50を下回った(図表3、4)。

回答構成比は「良くなる」「やや良くなる」が3.0%(前回17.0%)、「変わらない」は8.0%(同53.0%)といずれも減少した一方、「やや悪くなる」「悪くなる」は89.0%(同30.0%)と増加し、約9割を占めた。

分野別では、家計動向関連指数が9.3(同43.4)、企業動向関連指数は12.5(同44.6)、雇用関連指数は13.9(同58.3)といずれも前回は大幅に下回った。

新型コロナウイルスの収束が見通せず、先行きの不透明感の高まりを指摘する声や需要の縮小に伴う雇用情勢の悪化を懸念する声があり、判断指数は低迷した。

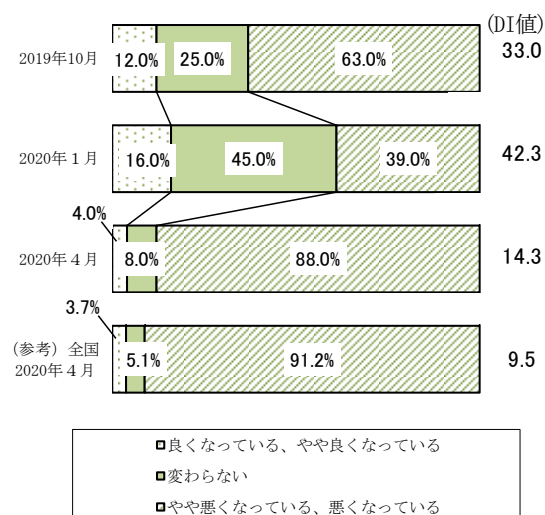
地域別では、県央地域が10.4(同50.7)、県南地域が10.0(同44.4)、沿岸地域が12.5(同36.1)、県北地域は9.4(同41.7)となった(図表5)。

(ウォッチャーのコメントは参考1、調査要領については参考2をそれぞれご参照ください。)

図表1 景気の現状判断指数（DI）の内訳

分野	2019年 10月	2020年 1月	2020年 4月	増減
合計	33.0	42.3	14.3	△ 28.0
家計動向関連	31.1	42.6	10.8	△ 31.8
小売関連	32.1	41.7	16.3	△ 25.4
飲食関連	26.7	44.6	1.6	△ 43.0
サービス関連	31.3	42.1	8.3	△ 33.8
住宅関連	35.7	43.8	17.9	△ 25.9
企業動向関連	34.5	39.1	20.8	△ 18.3
雇用関連	44.4	47.2	22.2	△ 25.0

図表2 回答構成比（現状判断）

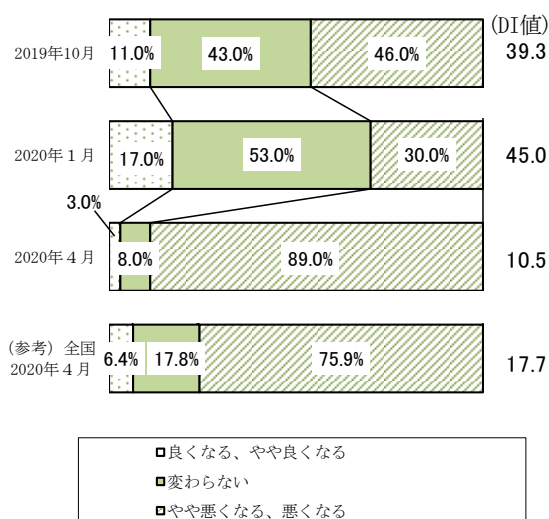


(注) 単位未満四捨五入につき合計が100%とならない場合がある

図表3 景気の先行き判断指数（DI）の内訳

分野	2019年 10月	2020年 1月	2020年 4月	増減
合計	39.3	45.0	10.5	△ 34.5
家計動向関連	39.3	43.4	9.3	△ 34.1
小売関連	40.2	40.7	8.7	△ 32.0
飲食関連	43.3	48.2	3.1	△ 45.1
サービス関連	33.8	39.5	15.3	△ 24.2
住宅関連	42.9	53.1	10.7	△ 42.4
企業動向関連	39.3	44.6	12.5	△ 32.1
雇用関連	38.9	58.3	13.9	△ 44.4

図表4 回答構成比（先行き見通し）



(注) 単位未満四捨五入につき合計が100%とならない場合がある

図表5 地域別の景気判断指数

地域	景気の現状判断指数（DI）				景気の先行き判断指数（DI）			
	2019年 10月	2020年 1月	2020年 4月	増減	2019年 10月	2020年 1月	2020年 4月	増減
合計	33.0	42.3	14.3	△ 28.1	39.3	45.0	10.5	△ 34.5
県央地域	31.9	35.1	13.2	△ 21.9	41.7	50.7	10.4	△ 40.3
県南地域	35.3	45.8	14.4	△ 31.4	39.1	44.4	10.0	△ 34.4
沿岸地域	30.0	51.4	20.3	△ 31.1	36.7	36.1	12.5	△ 23.6
県北地域	32.5	38.9	6.3	△ 32.7	35.0	41.7	9.4	△ 32.3

## 【参考1：景気ウォッチャーの主なコメント】

	分野	判断	判断の理由	
現 状	家計 動向 関連	良	新型コロナウイルス感染拡大により、2月中旬頃からマスク、トイレットペーパーなどの紙製品や消毒液のほか、冷凍食品、パン類、レトルト食品などの需要が急速に高まっている。（沿岸：スーパーマーケット）	
		不変	同ウイルスの影響で来店客数は減少しているものの、成約数は例年並みとなっている。今後は需要の減少が見込まれるため状況を注視している。（県南：不動産取引業）	
		悪	同ウイルスの影響は急激かつ深刻な問題と捉えている。大規模災害レベルのダメージだが、これまでと違う点は集客自体が感染リスクに直結するため有効な対応策を見出しかねている状況である。（県央：大型小売店）	
		悪	同ウイルスの影響から来店客が減り宴会の予約もない。市内の人通りも少なくなっている。（県央：飲食業）	
		悪	店内で飲食するお客さまが大幅に減少しているため最近ではテイクアウトに注力しているが、以前から行っているものでありノウハウはある。近隣の料理店と連携してレトルト食品のネット販売を開始した。お客さまからは好評であるが、包装や発送の費用がかかるため利益はあまり出ていない。（県南：飲食業）	
		悪	同ウイルスの影響から会合、宴会、会食など予約のほとんどがキャンセルとなった。（県北：飲食業）	
		悪	同ウイルスの影響により団体客や外国人客の入込みがなくなるなど観光客が減少した。また、宴会などの利用もなくなり厳しい状況となっている。（県南：観光事業）	
		悪	緊急事態宣言によりゴールデンウィークの予約は現時点でゼロの状況である。また、売上げは前年同期に比べて4～5割減の見込みとなっている。（沿岸：旅館業）	
	企業 動向 関連	やや悪	同ウイルスの感染拡大により、取引先の電話機等のメーカーで中国からの部品の輸入が滞っているため当社でも製品の仕入れができず、工期に遅れが出ている（県央：情報通信業）	
		悪	学校が休校となったため給食関連商品の出荷が停止し、売上げが減少している。（県南：食料品製造業）	
	雇用 関連	やや悪	新卒採用においては2021年3月卒の採用の取り止めや採用人数の縮小などの影響がみられる。また、インターンシップなどの受け入れにも影響が及ぶと考えられるため、22年3月卒の採用についても先行きが不透明である。（県央：県就業支援担当）	
		やや悪	同ウイルスの影響から景気が悪化傾向にあり、企業は人員を削減する方向で動いているとみられる。（県南：新聞求人広告）	
	先 行 き	家計 動向 関連	やや良	同ウイルスの感染拡大が徐々に収束することにより、外出が増えると思われる。例年より少ないものの、スクールバスやスクールタクシーも稼働し始める見通しである。（県北：タクシー業）
			不変	同ウイルスの問題の収束が見通せず、半年程度は現状のまま推移するのではないかと考えている。（沿岸：各種商品小売業）
やや悪			現在はテイクアウトに注力しているが、先行きが不透明であり厳しい状況が続くと考えられる。（県南：飲食業）	
やや悪			新築工事の受注が減少しているほか、リフォームに関しても同ウイルスの影響で資材調達が困難な状況である。（沿岸：建築工事業）	
悪			同ウイルスの影響で牛肉の需要が落ち込み価格の下落が進んでおり、収束までの時間が長引けば長引くほど売上げは厳しくなると予想する。（県南：肥料・飼料卸売業）	
悪			平泉町の春の藤原まつりや北上展勝地さくらまつりなどイベントが相次いで中止となっており、売上げの減少などの影響が出ると思われる。（県南：飲食業）	
悪			宴会や挙式の延期のほか半年先のイベントが中止となるなど先行きが見通せない状況である。（県央：ホテル業）	
悪			同ウイルスの影響により売上げが減少したテナントなどの家賃交渉が増加している。5月以降は家賃の支払いが難しいとする飲食店が多く、先行きの見通しがつかない。（県央：不動産取引業）	
企業 動向 関連		やや良	現在は衛生器具が調達できず業務に支障が出ているが、2、3カ月先には解消すると見込んでいる。（県南：建設・設備工事業）	
		悪	同ウイルスの影響による経済全体の大幅な停滞で民間の土木・建築工事への投資が減少すると予想される。また、県や各市町村の公共事業への予算配分も不透明さが増している。（県北：建設業）	
雇用 関連	悪	2021年3月卒の学生を対象とした企業説明会などの中止、県外への移動の制限などにより、今後も就職活動に遅れが出るなどの影響が懸念される。（県南：学校就業担当）		
	悪	飲食や接客に関連する業種・職種の求人は、県外企業を中心に減少することが予想される。（沿岸：学校就業担当）		

## 【参考2】

# ＜ 調査要領 ＞

## 1. 調査内容

- (1) 景気の現状に対する判断
- (2) (1) の理由及び具体的状況の説明
- (3) 景気の先行きに対する判断
- (4) (3) の理由

※ (1)、(3) は5段階評価による回答とする。

## 2. 調査時期

2020年4月

## 3. 調査対象者・方法

県内の景気の動きを観察できる立場の方々112名への郵送、電話による聴取（内容は下表のとおり）。

### 調査対象者の分野・業種

分 野 (調査対象者数)		調査対象者の代表的な業種
家 計 動 向 関 連 （ 77 名）	小売関連 (30名)	百貨店、スーパー、コンビニ、 一般小売店、自動車販売など
	飲食関連 (17名)	飲食店、割烹・料理店、スナック、 外食チェーンなど
	サービス関連 (22名)	ホテル・旅館、クリーニング店、 ガソリンスタンド、タクシーなど
	住宅関連 (8名)	建設設計事務所、不動産販売、 住宅販売など
企業動向関連 (25名)		製造業、広告代理店、運輸業、 農林水産業など
雇用関連 (10名)		人材派遣、学校就業関係者、 求人広告など

### 調査対象地域の区分

地 域 (調査対象者数)	市町村
県央地域 (40名)	盛岡市、八幡平市、滝沢市、 雫石町、葛巻町、岩手町、 紫波町、矢巾町
県南地域 (43名)	花巻市、北上市、遠野市、 一関市、奥州市、西和賀町、 金ケ崎町、平泉町
沿岸地域 (19名)	宮古市、大船渡市、陸前高田市、 釜石市、住田町、大槌町、 山田町、岩泉町、田野畑村
県北地域 (10名)	久慈市、二戸市、普代村、 軽米町、野田村、九戸村、 洋野町、一戸町

## 4. 回答状況

有効回答数 100件

回収率 89.3%

## 5. 指数（DI値）の算出方法

5段階の判断に、それぞれ下表のとおり点数を与え、これらに各判断の構成比（%）を乗じてDI値（Diffusion Index）を算出する。DI値は50を目安としており、50を上回っていれば景気の上昇局面、下回っていれば下降局面と判断する。

### 指数（DI値）点数表

回答区分	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
点数	+ 1.00	+ 0.75	+ 0.50	+ 0.25	0.00